いちご新聞

～山元町震災復興 土曜日の会だより～

【第3号】2012年8月1日

発行：山元町震災復興 土曜日の会
住所：宮城県亘理郡山元町
山寺字浜183 普門寺内
発行責任者：砂金 政宏
（土曜日の会会長）
電話：090-1938-5170

～土曜日の会とは？～
山元町の復興を
考える住民の会です

笠野区住民集会
「広く赤坂地区への移転希望世帯募る」

去る7月4日（坂元地区）5日（山下地区）に、住民の集団移転や災害公営住宅移転についての最終意向確認に関わる町の説明会が開かれた。このことについては土曜日の会でも大きく取り上げ議題となっている。

山元町の復興計画の柱となっている「コンパクトな町づくり」については、常磐線の内陸移設とともに町主導ですすんでいるが、住民説明会ではもっと住民側に寄り添ったきめの細かい対応が必要との要望も出ている。ほぼ全域が第一種危険地域に指定されている笠野地区ではこれまで、区単位でまとまって内陸へ集団移転する案を検討し、町側と交渉を重ねてきた。

赤坂への移転希望

7月22日（日）には第2回目となる笠野地区の住民集会が、町民グランド仮設集会所で開かれた。参加者は23名（新浜地区の方1名含む）、町が示す集団移転の説明会に関して活発な意見がかわされた。会の中では「山元町に住み続けたい」「いちごなどの農業を続けていくためには、少しでも田畑に近い場所に移転したい」…という切なる要望が多く出された。笠野地区としては、すでに町内赤坂地区に集団移転を希望する旨を山元町執行部に申し入れている。それに対し町側は、説明会の中で「将来を見越した町づくりへ向けて、住民の皆さんと意見を交換していきたい。」との回答をしている。

町営 紅葉住宅から見た赤坂地区

これを受けて26日には赤坂移転を希望する住民が会合を持ち、赤坂地区に集団移転を希望する住民の会をたちあげた。会では今後50世帯以上の移転希望世帯を募り、町側に要望を伝え根気強く話し合いをしていく考えだ。また、現・笠野地区の住民に限らず、広く赤坂地区への移転希望世帯を募っていく方針だ。

NEWS 八重垣神社 震災乗り越え 夏祭り 復活

7月28、29日の二日間、笠野地区の八重垣神社にて夏祭りが行われた。震災後2年ぶりの開催とあって人出が心配されたが、当日は予想以上の賑わいを見せた。28日の宵祭りでは境内に10軒以上の出店が軒を連ね、大勢の参拝者を楽しませた。翌日の本祭りでは神輿渡御が行われた。

八重垣神社の神輿は、津波で一度流出したものの、この日の為に修復。例年通り、笠野浜の海にて神事の後、仮設住宅2ヶ所を周り喝采を浴びた。

7月29日 八重垣神社の神輿渡御の様子

コラム③ 山元町防災集団移転は被災地域を切り捨て、被災住民を犠牲にしている

山元町震災復興・土曜日の会　田代 侃（花釜）

防災集団移転の土地買取り

山元町の被災地域の屋敷は農村型が多い。農村型住居の敷地は宅地、畑、山林、原野、雑種地など複数の地目、地番の土地と複数の建物で屋敷が構成されている。町は屋敷のうち住居があった宅地のみ買い取る。これでは大変困った事態が生じる。移転者にとっては、買取り土地面積が少ないために移転復興資金が不足する。買取り部分周辺に残った土地は利用価値がなくなり、災害危険区域の建築制限によって強制的集団移転を強いられる被災住民は土地資産までも失うことになる。町としても買取った点々状の飛地では利用方法が無い。一体、移転跡地利用計画はどうするのだろうか。いままでの防災集団移転事業、今回の他市町の防災集団移転事業では宅地以外の地目も買取りの対象にしている。山元町はなぜ宅地だけしか買い取らないのであろうか、このままで集団移転が成立するとは思えない。いずれ移転跡地利用のためには区画整理が必要になると思われる。しかし町はその方針を住民に明らかにしないで、住民の合意形成なしに移転の意向確認だけを急いでいる。

移転元土地価格と移転先土地価格

強制的に集団移転させられる被災住民の大きな負担になるのは移転元土地と移転先土地の大きな価格差である。移転元土地は災害危険区域指定とJR駅内陸移転によって下落した土地評価額で買い取られ、移転先土地はJR駅内陸移転と不良地盤での宅地造成のために高騰した土地評価額で買い受けなければならない。被災住民を犠牲にする何とも納得できないことだ。移転先の土地評価額が高いために災害公営住宅の家賃も民間賃貸住宅と大差ない。これでは被災住民の住居復興支援とは程遠い。JR常磐線の復旧長期化とあいまって、条件の良い町外への移転が増加するだろう。山元町が行った不合理な災害危険区域指定とJR常磐線内陸移転は将来に禍根を残すことになる。

災害危険区域に存続する居住地区の復興

山元町災害危険区域には500戸程度の住居が存続すると予想される。これは山元町全体の約2割に相当し、移転する戸数とほぼ同じである。すでに200戸以上が居住を開始している。山元町の震災復興行政はJR常磐線移転と防災集団移転だけの計画とし、災害危険区域に存続する居住地区を見捨て、切り捨てている。町は災害危険区域の復興計画と生活インフラの復旧整備を急げ。そもそも防災集団移転にともなう災害危険区域指定は被災地を非居住地にして、将来的に人命の犠牲を防ぐためである。その災害危険区域にこれほど多数の住居が存続することは山元町震災復興行政の過ちを証明している。震災復興に必要なのはスピードと安全安心の構築である。今の行政では山元町の震災復興は破綻する。

バック・トゥー・ザ・花釜
～住民の声インタビュー③～
金ちゃんラーメン 渡辺佳仁さん

「金ちゃんラーメン」と言えば、役場北隣の赤いのれんでおなじみのお店だったが、現在は地震で被害のあった店舗を取り壊し、町民グランド内の仮設店舗で営業している。お店のご主人、渡辺佳仁さんの自宅は花釜地区で、駅前通りの大湖堂から少し西に入ったところにあった。震災当時自宅は1階部分がすっかり波にのまれ、佳仁さんの父勲さんは数百メートル流され東保育所の屋根にあがり、九死に一生を得た。現在自宅は取り壊し更地になっているが、勲さんはラーメン屋の手伝いの傍ら自宅に行き、物置の修理や片付けをしたりしている。渡辺さんの家族は佳仁さん夫婦と長男長女、そして勲さん夫婦だがそれぞれ内手と東田の仮設住まいだ。自宅のあった場所は第2種危険区域に指定されている為、盛り土をすれば家を建てることが出来るが、店も自宅も再建することは資金面で難しく、将来のことはまったく希望が持てない状況だ。子供さんの学費や通学の悩みもあり問題山積で、具体的なことはまだまだ考えられないと佳仁さんは語る。しかし母のマスさんは、家族全員が無事で良かったと話しながら笑顔で、以前と変わらない美味しいラーメンを出してくれた。

ご主人佳仁さん 長男詩音くん 母マスさん

地域の絆、再び

花釜盆踊り

８月16日（木）
午後６時～９時

場所：ＪＲ常磐線山下駅前広場

毎年恒例だった花釜地区の盆踊りが、行政区が中心となり２年ぶりに復活。今年は河北新報社の支援協力もあり出店屋台も賑やかに！

みんな集まれ！！

山元町の夏祭り

～今年も町内各地で開催される夏祭り！～

小平では花火復活！

こでらんね夏まつり

８月12日（日）
午後３時～９時

場所：小平農村公園

毎年盛り沢山の内容で話題の小平夏まつり。例年好評の和太鼓やバンド演奏、お楽しみ屋台に加え、今年は目玉の打上げ花火が復活！

浜磯元坂

磯地区集団移転問題

求められる柔軟な対応

７月22日（日）に磯浜地区の集団移転計画に向けた地区懇談会が、坂元公民館で行われた。参加者は53名。磯地区の集まりは、昨年11月８日に中山の集会所で行われ、町長、副町長同席のもと農地復興問題やＪＲの内陸移転に関して話し合われた。その後、今年２月に町が行った集団移転の意向調査を受けて４月には行政連絡員（仮設の代表者）の会議、５月と７月には区長会でも、磯地区の集団移転に関する住民側の希望や意見を町側に訴えている。

現在までの町側との話し合いの中では、住民側の要望がなかなか反映されないばかりか、町側が当初からの移転計画を見直そうという姿勢を全く見せないことに、苛立ちを隠せない住民も多い。３ヶ所という数少ない移転候補地と選択肢の少なさに、コミュニティーが分断されるという住民の不安は大きい。懇談会では住民から次のような意見が出された。▽山元町の示す移転先は、なぜ３ヶ所だけなのか▽国や県の集団移転事業の基準は10世帯からで、他県では５世帯から認めている所もあるが山元町はなぜ50世帯に拘るのか▽ＪＲや県道の移転や整備について、町からの情報が不足している▽町は移転先を限定し、選択肢を与えないのか▽家族が別世帯になるので自分で移転する事に不安を感じる▽避難道路の整備が示されない▽漁民、農民ともに港や田畑、作業場に遠いと非常に困る▽新坂元駅周辺や、災害公営住宅の場所は、津波被害の大きい所だったのに、移転候補地になっていて不安だ▽１００坪では農機具や漁具の収納場所もとれない。

磯浜地区から見た新田西の高台

新田西への移転希望

磯地区のまとめによる区住民の希望移転先については、次の様になっている。◇災害公営住宅への移転希望は６名。◇町が決めた移転先３ヶ所のいずれかに移転希望は10名。◇磯浜地区内に移転希望は27名。ここでいう「磯浜地区内」とは、新田西地区のことで、社台ファームの南東側にあたる。笠野地区の住民が希望している赤坂地区同様、以前の住居や漁業の作業場、田畑に近く、なおかつ防災の面でも安全性が確保される場所だ。「町が示す移転地（新坂元駅周辺）よりも区内の住民のコミュニティーが守られる」と区長の星新一さんは語る。隣町の新地町では、移転候補地は７か所もあり、住民の声を反映しながら町の計画の見直しを図るなど柔軟に対応しているという情報もあり、区長さんはじめ磯地区の住民の方々は、今後もあきらめず町側に要望を訴え、働きかけていくつもりだ。

おてら災害ボランティアセンター

テラセン活動報告その③

大学生ボランティア180人が山元町で２日間の支援活動

６月30日～７月１日の２日間、大学生１８０人がテラセンでボランティア活動を行っていただきました。全国の大学生により組織されている「国際ボランティア学生協会ＩＶＵＳＡ（イビューサ）」です。国内での災害救援活動のみならず、カンボジアへの学校建設などの国際貢献活動、河川清掃などの環境保護、地域活性化活動なども行っております。大学生による災害救援活動としては国内最強とも言われており、汗まみれ、泥まみれになって活動する学生たちの姿は大きな勇気を与えてくれます。この２日間で20の現場でがれき撤去などの活動を行っていただきました。今後も山元町の再生に関わっていきたいとの事。これからも山元町で彼らの姿を目にすることができそうです。

熱心に話を聞く大学生たち←

山元町

緑の再生！プロジェクト

現在、町内７名の方より、計約５００本ほどの苗木の植樹希望の申し込みを頂いています。これに対し無償での苗木提供には、新潟や仙台の団体から連絡を頂いている状況です。今後、苗木の受入れ側と提供側との調整に入って行きますので、今しばらくお待ちください。山元町の緑がよみがえる日を夢見て、プロジェクト進行に力を注いで行きたいと思います！

復興応援

店舗情報紹介

今回の店舗情報紹介コーナーは町民グラウンド仮設内にある仮設商店街を特集します。前号で紹介した橋元商店をはじめ６軒のお店が軒を連ねています。

髪切りはうす「つじ」

辻憲子さん
営業時間：９時～18時
定休日：第１・３日曜、毎週月曜
電話：３７－２１２１

美容室「PURE」

渡辺清子さん
営業時間：９時～18時
定休日：毎週日曜、祝日
電話：３７－３５５１

「金ちゃんラーメン」

渡辺佳仁さん
営業時間：11時～14時
定休日：毎週月曜日
電話：３７－５５１９

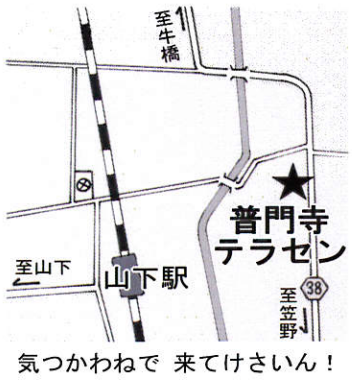
岩佐海苔店

ニホエ商店

橋元商店

編集後記

新聞を作り始めてから知ったことが沢山あり、生まれて育ったこの町のことについて何も知らなかったということに、あらためて気付かされます。震災はとても残念で辛い出来事でしたが、この新聞作りが復興の一助になれば…と願いつつ、また次号へ向けてがんばるぞ！（内山）



土曜日の会
毎週土曜日６時より

気つかわねで　来てけさいん！